

見る! 触る! 学ぶ!

～縄文土器編～



縄文土器を見て・触って・学びましょう

山梨県は縄文時代の遺跡の宝庫です。しかし、遺跡があることを知っていても、実際、土器を手に取って触ることは少ないと思います。そこで、貴重な文化財を心おきなく、見て、触れるように、山梨県埋蔵文化財センターで資料をご用意いたしました。是非、色々な場所で、折に触れてご利用頂きたいと思います。なお、当センターでは、3年計画で収蔵庫の中にある膨大な資料を再整理しております。今回は、縄文土器78点の復元・修復をおこないました。詳細なお問い合わせについては、巻末に示しましたのでご利用ください。

縄文時代って・・・

今から約1万2000年前から約2400年前までの約1万年の間のことを縄文時代とよんでいます。

縄文時代は、シカやイノシシなどの狩猟と木の実や山菜などの採集で生活していました。狩りに使う石器・生活に欠かせない縄文土器・祈りや信仰に使う土偶、体を飾る装身具など、色々な道具を使って、豊かな生活を行っていました。

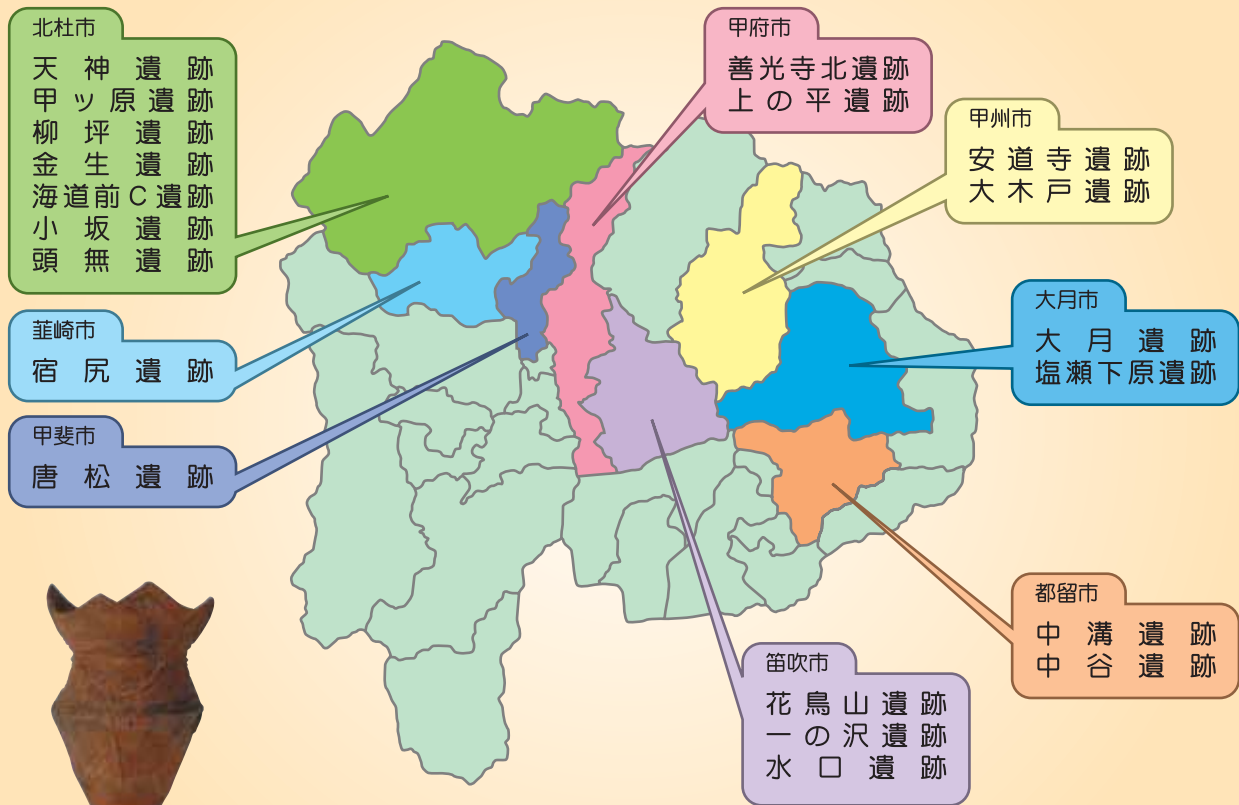


縄文土器って・・・

豊かな縄文時代に使われる道具のなかで、もっとも多く発見されるものが縄文土器です。縄文土器は、約1万年の間に形や文様が様々な変化します。それは、変化する環境やそれに応じた生活状況が原因となりますが、色々な用途に合わせ、土器づくりを支えていた、ものを作る想像力と高度な技術があった事をしめています。



復元・修理された土器はこれらの遺跡から発見されたものです。



縄文土器を見てみよう！

縄文時代の大きな特徴の一つである縄文土器の発明は、人々の生活に大きな変化をもたらしました。特に、土器を火の中において食べ物を煮るということはすばらしい発見で、食事のメニューを豊富にし、季節を通して同じ場所に住むという習慣の第一歩を可能にしたのです。ここでは、縄文土器の多くが煮炊きに使われていることから、食に関する土器を見ていきましょう。

土器を見る時のポイント！ 食に関する土器



ポイント！！

火の先端が当たる部分に黒くススがつきます。

火の中に置いて使うもの

縄文土器の多くは、火の中に置かれ食べ物を煮るために使われます。そのため、土器の真ん中から上が火をうけ、すすけて黒くなっています。



液体を入れるもの

注口土器と呼ばれている土器です。急須のような注ぎ口がついているのが特徴です。

食べ物を入れるもの

浅鉢と呼ばれている土器です。お皿やお椀のように使われました。



いろいろな縄文土器の形や文様

縄文土器の形

※このような形の土器もあります。



約1万2,000～9,000年前（縄文時代草創期）の土器

約9,000～6,000年前（縄文時代早期）の土器

この時代の遺跡はとても少なく、土器も完全な形のものがほとんどありません。底が尖った形や丸い形が特徴で、ものを入れて保存するには難しく、煮炊き用であると考えられています。



約6,000～5,000年前

（縄文時代前期）の土器

中部地方では、この時期の中頃に底の形が尖ったものから平らなものに変わります。縁の部分をお口縁といいます。山梨では、この時期の後半に遺跡が増えます。右の写真の土器には、竹管文という竹状の道具を使ってミミズ腫れのような文様が土器一面に施されています。



約5,000～4,000年前（縄文時代中期）の土器

この時期は、1万年間の縄文時代の中で、人口が最も多く集落もたくさん発見されています。人が増えるということは、生活が豊かになり、様々な発想も生まれます。縄文時代の中で、土器の形や文様が最も立体的でバラエティーに富んでいることがこの時期の特徴です。特に中期の中頃から後半にかけては、山梨県から長野県にかけて華やかな縄文文化が栄えました。



約4,000～3,000年前（縄文時代後期）の土器

この時期は、遺跡の数が減り始めます。気候の寒冷化が原因で、植物や動物が採れなくなり生活が不安定になったと考えられます。そのせいか、土器の文様や形も質素で実用的になっていきます。

約3,000～2,400年前（縄文時代晩期）の土器



この時期は、精製土器と粗製土器がセットで作られるといわれます。精製土器は表面を棒状の工具や石でよく磨き、文様をつけた光沢のあるきれいな土器です。祈りや信仰に使う土器と日常生活で使うものと使い分けていたのかもしれませんが。



縄文土器を触ってみよう！

～とつてや口縁のバラエティ～

てんじん

天神遺跡（北杜市）



口縁部が4つの波形で、波の高い部分に刻み目があります。胴部は縄文が全面に施されています。

こさか

小坂遺跡（北杜市）



口縁部の縁は平で、その下に文様がたくさん施されています。



しゅくじり

宿尻遺跡（北杜市）



口縁と胴部に渦巻き模様がたくさん描かれています。

かいどうまえしー

海道前C遺跡（北杜市）

大きな”注ぎ口”が特徴です。



かいどうまえしー

海道前C遺跡（北杜市）

やなぎつぼ

柳坪遺跡（北杜市）

鳥の顔のような飾りが口縁部についています。



かしらなし

頭無遺跡（北杜市）



大きさが違う2つの土器ですが、Xの形をした取っ手がついています。



～胴部の文様のバリエーション～

はなとりやま

花鳥山遺跡（笛吹市）



割れ目の両側に孔をあけて紐などで結んで、修理した痕です。



てんじん

天神遺跡（北杜市）



小さな三日月形の刻みが口縁につけられています。



うえのだいら

上の平遺跡（甲府市）



冠のような口縁部が特徴的です。

粘土紐で区画した中にいろいろな模様を描いています。

おおきど

大木戸遺跡（甲州市）



楕円形に区画した中に、いろいろな模様を描いています。



おおつき

大月遺跡（大月市）



ハの字を逆さにした模様が特徴的です。

おおつき

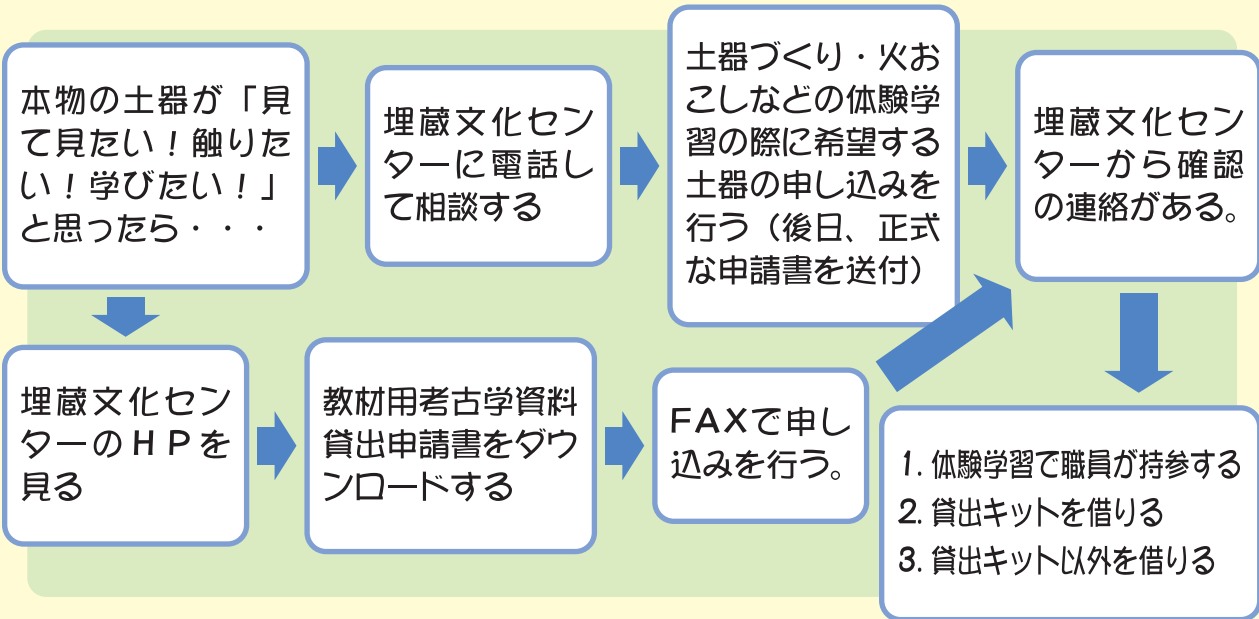
大月遺跡（大月市）



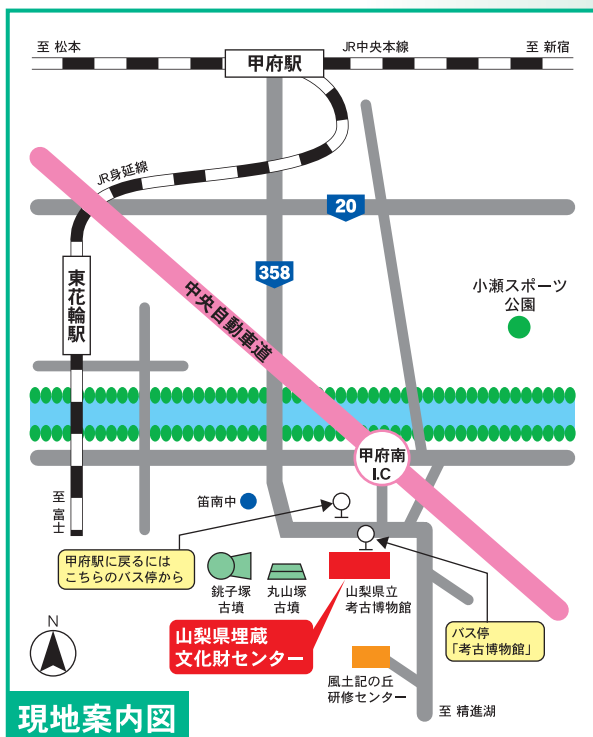
8の字形をした粘土を貼付けています。



埋蔵文化財センターの土器を見て・触って・学ぶときは？



1. 貸出対象は、学校及び教育機関です。
2. 貸出資料は、埋蔵文化センター所長が許可した方にお貸しいたします。
3. 貸出資料を直接、持ち運ぶときには資格が必要ですが、資格のいない貸出キットもありますので、お気軽にお問い合せ下さい。



各種事業のご案内

事業名	対象	時期
1 出前支援	小・中・高校・その他教育機関	通年
2 発掘体験セミナー	高校生以上	年10回程度
3 先生の文化財活用支援講座	学校の先生・教育機関職員	年1回（8月）
4 職場体験	小・中・高校生	通年
5 考古資料貸し出しキット	小・中・高校・その他教育機関	通年
6 埋蔵文化財DVD貸し出し	小・中・高校・その他教育機関	通年
7 発掘現場説明会・見学会	どなたでも	随時
8 遺跡調査発表会	どなたでも	秋・春
9 遺跡展	どなたでも	毎年3～4月頃
10 遺跡展巡回展	どなたでも	年3カ所程度
11 埋蔵文化財シンポジウム	どなたでも	年1回
12 講師派遣	要相談	通年
13 埋蔵文化財相談窓口	どなたでも	通年
14 広報誌「埋文やまなし」	どなたでも	年2～3回発行
15 ホームページ	どなたでも	毎週更新

※事業の内容や開催に関する詳しい情報は、センターへ直接お尋ね頂くか、ホームページを随時更新しますのでご覧下さい。

山梨県埋蔵文化財センター

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町928

TEL 055-266-3016 FAX 055-266-3882 メール maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/maizou-bnk/index.html>